

函 農 水

令和 6 年(2024 年) 1 1 月 1 日

経済建設常任委員会 委員各位

農 林 水 産 部 長

参考資料の配付について

このことについて、下記のとおり資料を配付しますのでよろしくお願い
いたします。

記

小型イカ釣り漁業出漁支援補助金の交付対象期間の延長について

(農林水産部水産課)

小型イカ釣り漁業出漁支援補助金の交付対象期間の延長について

本市では、海洋環境の変化によりスルメイカの漁獲量が低迷するとともに、燃料費などの経営コストの上昇に伴い小型イカ釣り漁業者の収益悪化が深刻となっており、廃業に追い込まれる漁業者も出るなど、本市の小型イカ釣り漁業を維持していくことが厳しい状況となっています。

このような中、採算が合わないとの判断から出漁を控える漁業者に対し、燃料費の負担を軽減し出漁を促すことで、本市内での生鮮スルメイカの流通量を確保することを目的に、令和元年度（２０１９年度）から出荷１回につき１万円を支給する出漁支援補助を実施しておりますが、今年度の取り扱いについて、以下のとおり変更することといたしましたのでお知らせします。

１ 変更する主な内容

・補助金の交付対象期間

現 行	令和６年（２０２４年）	６月	１日	から
	令和６年（２０２４年）	１０月	３１日	まで
変更後	令和６年（２０２４年）	６月	１日	から
	令和７年（２０２５年）	１月	３１日	まで

２ 変更理由

- (1) 函館市水産物地方卸売市場における今期９月末時点までのスルメイカ取扱量は、過去最低であった昨年に次ぐ低水準で推移しており、１０月も大幅な漁獲の回復は見込めないこと。
- (2) 近年の高水温化に伴い、南下するスルメイカ（戻りイカ）の来遊が遅れる傾向にあり、１０月をピークとして、１１月以降も漁期前半（６月～９月）と同等程度の漁獲量が見込まれる傾向にあること。（図３参照）
- (3) 南下するスルメイカの来遊が遅れることに伴い、例年、１０月以降に近海に形成されていた漁場が、室蘭・十勝沖方面に形成されるようになってきており、漁場までの移動に大量の燃料を消費すること。

以上のことから、６月１日から１０月３１日までとしていた補助金の交付対象期間について期間を延長し、１１月以降の小型イカ釣り漁業の操業も対象とするものです。

なお、この変更に伴う予算の増額は予定しておりません。

補助対象期間の延長が必要な要因について

○漁獲量の低迷

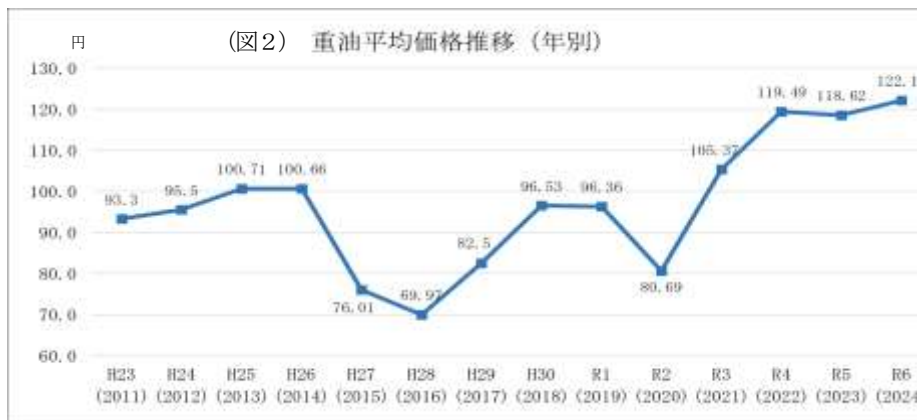
本市のスルメイカ漁は海洋環境の変化により漁獲量の低迷が続いており、2023(R5)年の漁獲量は1,612 トンで過去最低を記録し、15年前の2008(H20)年のわずか4%まで減少している。今年8月までの小型イカ釣り漁業の漁獲状況は、昨年をさらに下回る状況となっている。



出典：北海道水産現勢

○燃油価格の高騰

燃油価格は高止まりしており、令和6年度のA重油平均価格は過去最高値で推移。さらに資材価格も高騰しており、経営コストは年々増大している。

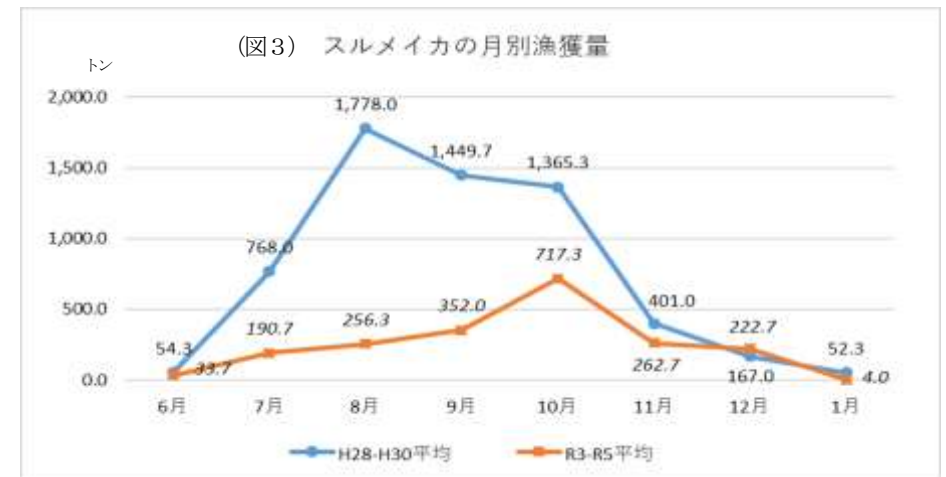


出典：石油製品小売価格調査

○漁場の変化

小型イカ釣り漁船によるスルメイカ漁は、6月の漁期序盤から8～9月のピーク時まで、遠くは松前や青森沖の日本海を主たる漁場として、スルメイカを漁獲していたが、例年10月以降は漁場が近海に形成されていたことから、11月以降の漁獲については本補助金の対象外としていた。

しかし、近年の高水温化に伴い、南下するスルメイカ(戻りイカ)の来遊が遅れる傾向にあり、11月以降も、漁期前半(6月～9月)と同等程度の漁獲量が見込まれること、また、南下するスルメイカの来遊が遅れることに伴い、10月以降の漁場がこれまでの近海から室蘭・十勝沖方面に形成されるようになってきており、漁場までの移動に大量の燃料を消費するなど、制度を検討した時点と比較し、状況が変化してきている。



出典：北海道水産現勢